

定禅寺ジャーナル

-ウェブ版 ディベート編-

<http://www.kadowakiart.com/jozenjijournal/>

本音で語り合える場を 仙台につくりたい

——支持もされたいが、批判もされたい。
なぜなら、それで成長してきた自分がいるから。

鈴木太さんが仙台のまちかどでビッグイシューを販売し始めたのは2010年8月。支援してもらうためにビッグイシューを売っているのではなく、売場がまちかどにあるというだけで、やっていることは純然たる本屋と同じとの思いから、ならばこの「店」にしかできないことをしようと、毎号、手書きのミニコミ誌をつけることにしました。

お客さんへの評判もよく、鈴木さんの商才が証明されたかに見えました。しかし、書くことは鈴木さんにとって、単なる販売促進の道具ではなく、自己表現そのものだったのです。やがて客が減ってもいいから本音を書きたいと強く思うようになりました。

そうして書いたミニコミ誌。普段温厚なお客さんが読むなり鈴木さんをどなりつけるほどのものだったそうです。

その晩、鈴木さんは嬉しくて眠れなかったといいます。自分が本音で書いた文章をその人はきちんと読んで批判してくれた。それが嬉しかったのです。そのお客さんは今でも必ず買いに来てくれ、いいものはいい、ダメなものはダメと意思表示してくれるそうです。そして鈴木さんのお客さんの多くは、そうした人が占めるようになったといいます。

自分たちの年代の義務は、若い世代をどう良い大人にしていくかの道しるべを示すこと、と鈴木さんは言います。

いろいろな人と本音で語り合う場をつくりたい。そんな思いから「定禅寺ジャーナル ウェブ版 ディベート編」はスタートします。

みなさんが出演者です。ぜひご参加ください（メールやツイッター、スカイプなどでの参加も可能です）。

「定禅寺ジャーナル」とは？

「定禅寺ジャーナル」は、鈴木太さんが世の中のタブーに挑みたいと執筆をはじめた批評紙で、5月31日現在で創刊準備第3号まで発行されています。執筆にあたっては「評議会」の「査問」を受け（創刊準備第3号の書き直しは実に31回にものぼったそうです）、文字通り身を削っての執筆活動を行っています。

「ウェブ版」はこうした鈴木さんの今を、Ustreamを中心としたネットで配信していくもので、仙台在住のアーティスト・門脇篤が聞き手となり、不定期にインタビューを行ってきました。

これから始まるせんだいメディアテークでの「ディベート編」は、鈴木さんの問題意識も参照しつつも、集まった方全員が出演者となり、震災後を生きる者として、さまざまなことについて語り合う場にしていきたいと考えています。

レギュラー出演者



鈴木太（すずぎ・ふとし）

1965年、山形県生まれ。自衛官、郵便局員など様々な仕事を経て2010年、青森県八戸で派遣切りにあい、沿岸部を歩いて仙台へ。8月から仙台市青葉区一番町四丁目商店街と定禅寺通りとが交差する場所でビッグイシューの販売を始める。おまけとしてつけたミニコミ誌「ハッピー通信」がたちまち話題に。その後、路上生活中の有り余る時間を使って思索を深めた結果、批評誌「定禅寺ジャーナル」の創刊をめざすことを決意。

このほか、仙台のすべてのアーケードを月一回ボランティアで清掃する「仙台ダストスポットミステリーツアー」など仙台のまちを舞台に体当たりの活動を行っている。

司会



門脇篤（かどわき・あつし）

1969年、仙台市生まれ。「まちとアート」をテーマに、03年頃より宮城県東鳴子、北海道岩見沢、千葉県船橋、新宿区歌舞伎町、滋賀県栗東など各地でコミュニティアート型の取り組みを行っている。また、近年ではUstreamやツイッターなどを使ったソーシャルメディアアートの作品も展開。鈴木太氏とは出会ったその場でUstream放送を始めた。

99年より仙台市青葉区片平で癒し系学習塾「杜の教室」を開いている。

好きな言葉：アドリブ、見切り発車

<http://www.kadowakiart.com>

ツイッターアカウント kadowaki